

令和3年2月8日

東日本高速道路株式会社

取締役会長

岡本 園衛 様

常磐自動車道整備促進に関する

要望書



福島県
福島県相馬市
福島県南相馬市
福島県相馬郡新地町
福島県相馬郡飯舘村
福島県双葉郡浪江町

要 望 書

常磐自動車道の整備促進や供用区間の良好な維持管理につきまして、平素より格別の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

現在事業中の常磐自動車道一部区間における 4 車線化事業や付加車線事業が、年内完成に向け進捗し、更に浪江 I C ～ 南相馬 I C の一部区間で 4 車線が事業化するなど、改めまして、これまでの関係各位のご尽力に対し、深く感謝を申し上げます。

さて、東日本大震災から間もなく 10 年を迎えようとしております。

震災からの復興を概ね成し遂げた地域がある一方、福島第一原子力発電所事故の避難区域では、復興が進んでいるとはいえ、多くの住民が避難先での生活を余儀なくされており、いまだ復興途上の状況にあります。

常磐自動車道は、平成 27 年 3 月 1 日の全線開通以来、福島県内各地からの除去土壌等の中間貯蔵施設への輸送はもとより、「福島ロボットテストフィールド」などの、福島イノベーション・コースト構想の推進を支える重要なインフラであり、震災からの復興・再生の加速化、地域経済の振興に非常に重要な役割を果たしております。

現在事業中である、いわき中央 I C ～ 広野 I C 間の 4 車線化工事の一部、及び浪江 I C ～ 相馬 I C 間の付加車線設置工事が 2 月 27 日に供用開始、さらには山元 I C ～ 岩沼 I C 間の 4 車線化工事が 3 月 6 日に供用開始する見込みとなり、また、浪江 I C ～ 山元 I C 間が 4 車線化の優先整備区間になるなど、着実に整備が進捗しております。

一方、広野 I C ～ 浪江 I C 間が 4 車線化優先整備区間となっておらず、4 車線化の道筋が見えていない状況にあります。

更に国土強靱化の観点では、令和 2 年 7 月豪雨の際、九州自動車道において 4 車線化されていたため、被災から短時間で復旧された事例があるほか、一般に暫定 2 車線区間は、4 車線区間に比べて死亡事故が 2 倍多いと言われており、長い暫定 2 車線区間を有する常磐自動車道は、本来高速道路が備えるべき安全性や強靱性が十分に確保されているとは言えない状況であります。

現に、東日本大震災や令和元年東日本台風で被災した際は、常磐自動車道と並行し、ダブルネットワークを構成する一般国道 6 号は、浸水被害を受け、一部通行止めとなった経験があります。よって、当地域では、常磐自動車道が平時・災害時問わず通行可能である必要があります。

以上より、常磐自動車道は、国民の安全・安心を守るとともに、福島県の原子力災害からの復興・再生に欠かすことができない重要路線であることから、次の事項を実現し、速やかな整備促進を強く要望します。

記

- 1 「高速道路における安全・安心基本計画」において4車線化の優先整備区間に選定した「浪江IC～山元IC間」について、事業化となった「浪江IC～南相馬IC間の一部区間」の早期完成を図るとともに、残る区間についての早期着手を図ること。
- 2 広野IC～浪江IC間について、4車線化優先整備区間とするなど、常磐自動車道の全線4車線化へ必要な措置を講ずること。
- 3 現在事業中の（仮称）小高スマートIC事業に対して、財政的・技術的な支援を行うこと。

令和3年2月8日

福島県知事 内堀 雅雄

相馬市長 立谷 秀清

南相馬市長 門馬 和夫

新地町長 大塚 武

飯舘村長 杉岡 誠

浪江町長 吉田 敦博

▲福島イノベーション・コースト構想主要拠点分布